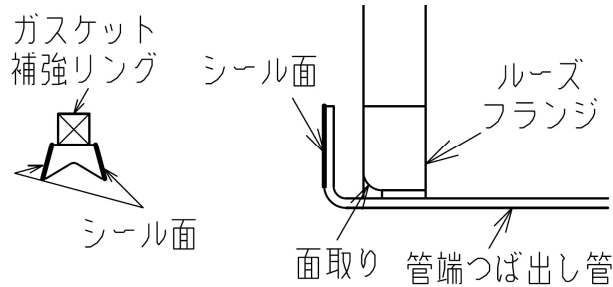


【注意】

- ① CFminiの施工をされる際には必ずお読みください。
- ② この施工要領に従わずに施工した場合、変形、割れ、漏水等の異常が発生する場合があります。

1 施工前の確認事項

ガスケット、管端つば出し管のシール面に傷やほこり等がついていないか確認してください。



2 ボルトの仮止め

管端部を近づけてルーズフランジを引き寄せ、ボルトナットを2本手締めします。



3 ガスケットの挿入

フランジ間にガスケットを挿入します。挿入の際はボルトの軸がガスケット補強リングの溝部にはまるように差し込んでください。

ボルトが通る

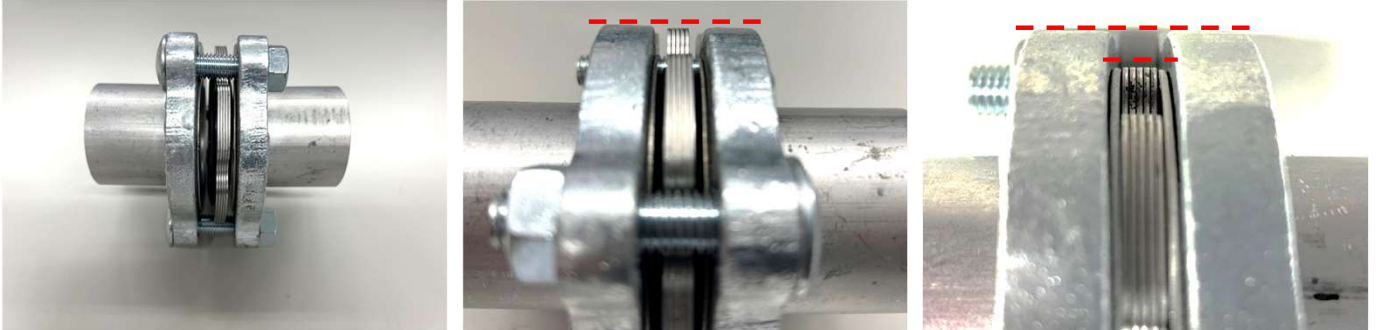
ボルトが通らない



ガスケット補強リングの溝部
(6ヶ所)

4 ボルトの仮締め

3本目のボルトをボルト孔に通し手締めしてください。この際、**ガスケット補強リング外径がフランジ外径と一致していることを確認してください。フランジのサイズに対してガスケットのサイズが正しくないと揃いません。**



○(揃っている)

×(揃っていない)

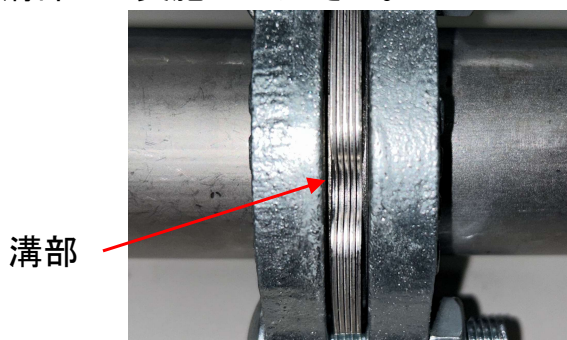
5 ボルトの本締め

3本のボルトを順番に均等に締付けてください。**締付に必要なトルクが低いため、従来型のJIS形フランジと比べてすぐに締付けが完了します。**この際、**フランジ、管端つば出し管、補強リングが密着してからの必要以上の締付や長時間の締付けをしないでください。フランジに過剰な負荷がかかりフランジの変形や破断等、不具合が発生する場合があります。**電動工具の締付トルクの設定ができる場合、低く設定して施工することを推奨します。

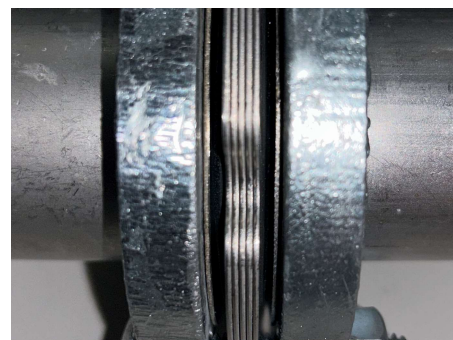
6 確認

締付後はフランジ、管端つば出し管、補強リングが密着しているかを目視確認してください。目視確認は、ガスケット補強リングの溝部にて実施してください。

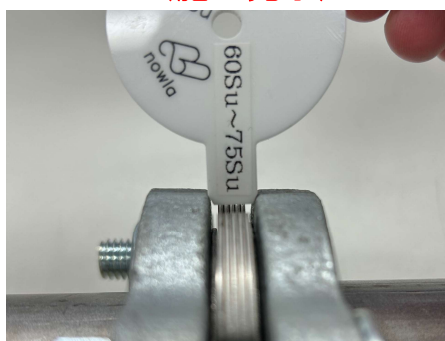
隙間管理ゲージによる確認も可能です。確認は目視確認と同様にガスケット補強リングの溝部にて実施してください。



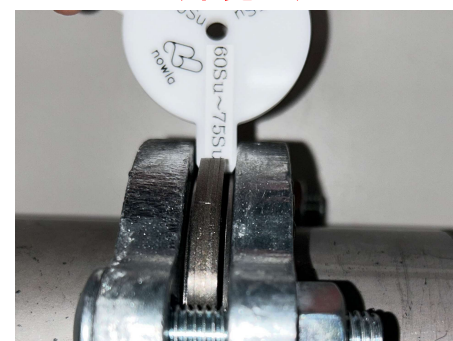
○(施工完了)



×(未完了)



施工完了(凸部が止まっている)



未完了(凸部が入っている)